

## <児童・生徒指導部会>

### 【児童生徒の実態】

- ・多くの児童生徒が元気に生活できている。
- ・基本的な生活習慣の身に付いている児童生徒が多いが、特に配慮を要する児童生徒も在籍している。

### 【部会のねらい】

異校種、異年齢の相手との交流を通して、児童生徒のお互いに対する理解を深めるとともに、小中で連携して指導することで、児童生徒が、時と場に応じたあいさつや言葉遣いをすることができる。（話の聞き方や伝え方など、児童生徒のコミュニケーション能力の育成を目指す。）

SNSの利用の仕方について小中で継続した指導をすることで、児童生徒が適切にSNSの利用をすることができる。

視点	<A> 教育課程の 工夫改善	<B> 教育活動の 連続性の確保	<C> 教職員間の 連続・協働	<D> 家庭・地域との 連携・協力
----	----------------------	------------------------	-----------------------	-------------------------

取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中交流会の実施（年間を通したあいさつ運動、中学生による読み聞かせ後の各教室で小学生と交流）。</li> <li>・SNS使用の実態把握と決まりの改善。前年度作成した小中で継続した決まりの周知、指導の継続、保護者への啓発。</li> <li>・時と場に応じた言葉遣いの指導。</li> </ul>
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生による読み聞かせやあいさつなどの交流を通して、小学生は中学生に親しみをもち、中学校生活への不安を軽減することができた。中学生はやりがいもち、交流する意識を高めることが出来た。</li> <li>・SNSのきまりを新たに作成し小中一貫で行うことで、保護者や児童に周知したり、継続指導を行う統一の目安となった。</li> <li>・あいさつや言葉遣いは、授業中はほぼ適切に使える。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつ運動ではなく、日頃から元気でさわやかなあいさつができる具体的な指導を継続していきたい。</li> <li>・SNSについては、家庭ごとのルールや考え方にばらつきがあり、帰宅後の個人的な使用について指導が徹底しにくい。トラブルもあるので、継続して指導していく必要がある。</li> <li>・言葉遣いは、休み時間や友だち同士では適切な言葉遣いが徹底されない。個人差がある。</li> </ul>